

大きな雷魚にびっくり

東松山 新宿小 市野川で生き物調査

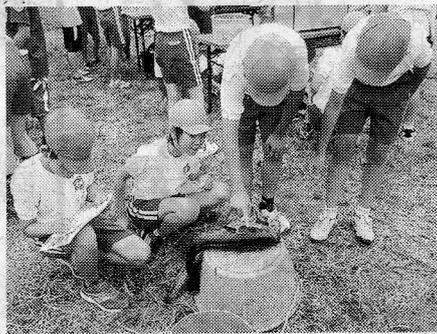
東松山市の新宿小学校の6年生約80人が、学校近くを流れる市野川の生き物と水質の調査を行い、自然の大切さを学んだ。

生き物調査は、6年生3組が各3班に分かれて、前日に仕掛けておいた網9個を引き上げ、各班の水槽に入れて観察した。地元の市民団体「市野川を再生させ隊イン東松山」(渡辺仁会長)の協力で分類すると、エビや魚など14種類、約200匹の生き物がいた。このうち魚は9種類で、外来種のブルーギルが約50匹と多かった。

中でも、子どもたちの興味を最も引いたのは、67匹の雷魚(カラムチ)。雷魚は、酸素不足で引き上げた時には死んでいたり、子どもたちは、雷魚の体を触ったり、鋭い歯を観察しながら、「こんな大きな魚が学校のすぐそばを流れる市野川にいますなんて」と驚いていた。

また、水質調査では、前日に集めた都幾川、市野川、滑川の汚

67匹もある雷魚に、興味津々の子どもたち



れ具合をCOD(化学的酸素要求量)パックテストを使い、検査した。(タウン記者・山本正史)